

JEWEL MAN

恐れることなどない？ あなたは私の人生がどんなものだったか、まったく分かっていない。絶え間ない苦しみだ。どんな影でも隠せない皮膚という呪いを背負わされ、錆びたピンや金具で皮膚を引き伸ばされ、鈍い板で筋肉を削り取られる。拷問の痛みで叫んでいる間、彼らは笑っている…。家族もいない、友もいない、名前もない…。ただ金になるだけの、死んだような存在だ。

トロールは Torm の描いた絵の形を見る。

JEWEL MAN ( 続き ) なぜそれを探している？

宝石の肌を持つ男は、彼女が地面に描いた印を指差す。

TORM 正直に言うと、何を探しているのか自分でも分からない。その印が何を意味するのか、何を表しているのか、そしてそれをどうすればいいのかも分からない。

JEWEL MAN だが、なぜそれを探している？

TORM 妹のため。妹はシャドウ・フィーバーにかかっている。これをもっと作るために、川をもう一度流れさせないといけない。Torm は鉱物の小瓶を指す。

TORM ( 続き ) これがなければ、妹は死んでしまう。そして妹がいなければ、私はこの世界で本当に一人ぼっちになる。どうすればいいのか分からない。そして、なぜここにいるのかも分からない。

男は黙り込み、考え込む。Torm の涙と、地面の印を見つめる。

TORM ( 続き ) あなたにしたこと、本当にごめんなさい。私の持つすべての愛を込めて約束する。あなたがここにいることを、誰にも決して話さない。

彼女は立ち去ろうとするが、男は彼女の腕をつかんで引き止める。彼の頬を涙が流れ落ち、それは結晶へと変わる。Torm はそれを拭い、苦しめられてきた男もまた彼女の涙を拭う。

TORM ( 続き ) あなたは…美しい。

Torm は静かに言う。彼の体は色を変え始める。彼は地面の印を見つめ、胸を覆っていた布を持ち上げる。そこにはハート・ジュエルがあり、地面の印と同じ模様に囲まれていた。

JEWEL MAN 君はここに、私の宝石を盗んで金持ちになるために来たのではない。妹を救うために、私の光を借りに来たんだ…。

天だけが知っている。何を盗むべきか、そしていつ盗むべきかを。それは優しい心の盗みだ。友からの盗み。私たちを連れ去る影から救うためではなく、昼が夜へと変わるその時まで光を守って持ち続けるために。そして再びそれを返す。滝にいる夢見る者によって。

彼は胸からハート・ジュエルを引き抜く。空洞は、掘り出されると同時に若い新しい結晶で素早く覆われていく。彼はその心臓の宝石を Torm に差し出す。

Torm は気づく。彼の胸の形が、自分のコンパスに刻まれていたものと同じだと。

TORM こんなもの受け取れない。これは私のものじゃない。

JEWEL MAN 今は、君のものだ。